〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
TEL. 0261-22-0211 FAX. 0261-21-2133
E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com
市立大町山岳博物館公式 Web サイトは、
大町山岳博物館友の会の支援により博物館が運用しています。

OMACHI ALPINE MUSEUM
市立 大町山岳博物館

山と博物館

「山と博物館」は、大町市役所および市内社会教育施設で、設置・配布しているほか、博物館公式 Web サイトからもご覧いただけます。

1月号
第62巻 第12号
2018年

無料
Free

もくじ

今月の1枚 …… 1ページ
・木崎湖　冬のバードウォッチング
さんぱく研究最前線　ー北アルプスの自然と人　トピックスー ‥ 2・3ページ
・保科五無斎が残した「長野県地学標本」～　大町西小学校に残された郷土の宝
博物館のひろば …… 4ページ
・「学校との連携授業」を行いました
・塩の道ちょうじや「文化講座」に職員を派遣しました
・信州大学・読売新聞松本支局共催「岳問のすすめ」に講師を派遣しました
・「北アルプスの四季」の撮影が12年目に入りました

博物館施設案内はこちら

水鳥を中心に観察をしました

木崎湖　冬のバードウォッチング

千葉　悟志

山岳博物館と山岳博物館友の会は、平成29年11月19日（日）に「木崎湖　冬のバードウォッチング」を共催で開催しました。講師は今年5月の「鷹狩山　春のバードウォッチング」に引き続き、腰原正己さん（安曇野市）と鳥羽悦男さん（同市）にお願いしました。お二人は元教諭で、現役のころより博物館の行事で講師を務めていただいておりますが、かつては大町市や近隣に赴任されてきた小・中学校の先生方が講師を務める機会が少なくなく、教え子を一緒に連れてきたもので、「小鳥の声を聞く会」ならぬ「子どもの声を聞く会」といわれるほど、賑やかで多くの子どもが博物館また友の会の行事に参加されていました。

今年の共催には4人の小・中学生が参加されました。11月5日、講師2人、友の会役員2人と一緒に下見を行い、ぽかぽか陽気のなか、オオバンやホシハジロなど30種を観察することができ、当日への期待が高まりました。

ところが、当日は北風が強く、小雪が吹き付ける荒れた天候で、湖面も波うち、小・中学生が観察するには厳しい条件で心配もされましたが、そのような心配はよそに、ホオジロガモのオスの飛翔やカンムリカイツブリの湖面から潜水に移行する姿にそれぞれ双眼鏡やフィールドスコープで覗き歓声をあげるなど、実際に生きた姿を観察することの大切さを改めて感じさせていただきました。

また、講師からは、鳥のなまえや習性のほかにも、大町市の鳥類相の変化や生息環境についてもお話しいただき、水鳥を中心に25種を観察するなかで、新たな視点から大町市の環境について考えていただくきっかけとなったものと思われます。

（市立大町山岳博物館 学芸員）

保科五無斎が残した「長野県地学標本」～大町西小学校に残された郷土の宝

清水 隆寿

はじめに

明治維新以降、山にフィールドを求め動物や植物、岩石や鉱物などを対象とした博物学の研究が、教師らを中心に新たな研究分野として注目されてくるようになります。小稿では、当時の調査や研究、子どもたちへの教育実践について、大町市立大町西小学校に保管されている保科五無斎（本名百助）の収集した「長野県地学標本」をもとに当時の様子を振り返ってみたいと思います。

大町西小学校に保管される「長野県地学標本」

保科五無斎の生い立ち

明治時代の教育者であり地質学者である保科五無斎は、慶應４年６月８日、長野県北佐久郡横鳥村山部（現在の立科町）に生まれました。この年の9月8日より、「明治」時代に改元されという激動のさなかです。明治24年(1891)、長野県師範学校を卒業後、長野県内で教師、校長を歴任する傍ら、鉱物採集に興味を持ち、武石尋常小学校（現・上田市立武石小学校）校長を勤めていた明治29年（1896）に、「緑簾石」、「玄能石」を発見し、『日本地質学雑誌』に標本目録を発表、鉱物学研究者として知られるようになりました。

しかし明治33年には郷里の北佐久郡蓼科小学校兼蓼科農学校長となりますが、半年でその校長の職を辞し、彼が目指すところの教育・社会活動を実践していきます。

明治34年から36年にかけ鉱物採集のため県下各地をくまなく探索し、標本300種、３万個余りの鉱物標本を採取し、その一部を皇太子（後の大正天皇）や帝大博物館に献納し、宮内庁から御下賜金を授与されるなど数々の栄誉に浴しています。一方で学校用教材に鉱物岩石標本を作製し、県下の小学校等に備品として揃えることに情熱を注ぎました。

その後の明治37年には仲間とともに長野市内で私立保科塾をはじめます。暮らしに困窮し、学費に苦しむ子弟を対象とした塾でした。彼が晩年に主張するところの幼稚園義務制化、小中高大学の授業料全廃、教科書、学用品の公費支弁、学級生徒数の縮小、修身科の廃止、図書館（実際に自身の寄贈図書をもとに県立図書館の端緒を築く）、県立博物館、県立大学の設置等々、先見性に優れた主張がなされましたが、当時の世相にあっては、自ら号を「五無斎」と称したようにその言動と相まって、奇人扱いされてその先取性が省みられることはありませんでした。

明治44年６月７日に脳栓塞のため突然倒れ、明治という時代をまさに駆け抜け、43歳（満）という短い生涯ではありました

「長野県地学標本」扉墨書

山岳博物館　市民「無料」開放デー

博物館では、毎月第３日曜日（家庭の日）とその前日の土曜日を「大町市民無料開放デー」としています。（これらの日については、大町市民以外の長野県民は団体割引料金でご観覧いただけます。）１月は20日（土）と21日（日）です。

が、その果敢な行動力と発想は理科教育のみならず、100年後の私たちも学ぶべきところがあります。

彼の終生の理解者であった渡渡邊敏（明治８年、大町西小学校の前身の仁科学校に訓導として招かれ、後に長野高等女学校（現在の長野西高）を創設するなど、信濃教育界に大きな足跡を残した）は、保科の郷里横鳥村の津金寺境内に翌年碑を建立し現在も保存されています。

戒名は、「地学院五無斎悟道明保居士」。その人柄を思い起こす戒名は、保科の人間味を感じさせ飄逸（ひょういつ）です。

大町西小学校に残された「長野県地学標本」

明治36年（1903）、保科は長野県の岩石の標本を作製するためにハンマーと大八車で長野県内を調査・収集し、「長野県地学標本」を作製しました。標本には保科による手書きの番号が注記され、紫色の小箱にそれぞれの標本が区分けされました。専用に造られた木箱には243点の標本が収納され、合計103組の「長野県地質標本」が作成されました。標本は長野県下の学校に献納され、110年以上経過した現在でも40点ほどが歴史資料として小学校などに残されています。当時北安曇郡内の学校にもいくつかは献納されたと思われますが、現在確認されている郡内の標本は大町西小学校の１点です。当時は大町尋常小学校と言われていました。

標本箱の引き出しに入った状態の岩石標本

鉱物標本を納めた木製の箱は、高さ66㎝、幅37㎝、奥行42㎝を測り、扉表面には「理學士瀧本鐙三先生校閲　保科百助蒐集」　中央部に「長野縣地學標本」と墨書（ぼくしょ）されています。扉裏側には「明治三十六年十月　保科百助獻納」と記載されています。扉蓋をあけると、中は９段の引き出しになっており、当初は番号順に上段から小箱に納められていたようです。５センチの程の大きさにうち割られた標本が、１番と書かれた「鹿塩片麻岩」から始まりなかにはガラス管に納められた火山灰や動植物化石、縄文時代に加工されたと思われる黒曜石の石器など、広範囲にわたる地学標本が100年以上前に作られたとは思えない状態で保管されています。標本には、北安曇地方で採集したものも17点含まれています。

旧北城村の蛇紋岩や、湯俣噴湯丘の霰石（あられいし）（球状方解石）です。現在これら標本は、校内の資料室に保管・公開されており、他の教育資料とともに当時の歴史を伝えています。

「実物観察と実体験の教育」「自らが考え、社会に役立つ人を育てる実務教育」に力を注いだ保科の教育に対する精神は、大町西小学校の宝にとどまらず、北安曇地域の宝として今後も受けついていきたいものです。

（市立大町山岳博物館　副館長）

標本小箱と標本の「黒曜石」

博物館のひろば

つぎの方は、年間を通じて博物館の観覧料が無料です。
大町市内在住の65歳以上の方
大町市内の小学校　中学校に通う児童　生徒の方
（入場の際、受付にてお名前等をご記入ください）

「学校との連携授業」を行いました

大町市立大町西小学校4年生　平成29年11月10日（金）
大町市立大町北小学校5年生　平成29年11月15日（水）
大町市立八坂小学校4年生　〃
大町市立大町北小学校4年生　平成29年11月21日（火）

11月中に博物館展示を利用した学校との連携授業で、大町西小学校4年生（2クラス42人）が理科・社会科、大町北小学校5年（1クラス35人）が総合的な学習、大町八坂小学校4年生（1クラス10人）が理科、大町北小学校（2クラス51人）が理科・社会科の授業で当館を訪れ、近代登山発展に貢献した百瀬慎太郎やライチョウ・カモシカを学習素材に常設展示を利用しながら、学芸員らが説明を行い、学習を深めていただきました。

塩の道ちょうじや「文化講座」に職員を派遣しました

平成29年11月11日（土）

塩の道ちょうじやの文化講座では、塩の道や大町の歴史・文化について長年にわたって語らいが続けられています。

この講座に専門員を派遣して、地形・地質からみた「塩の道」について、シルクロードと対照しながら講演しました。

「塩の道」は、姫川峡谷では険しい山道になります。そこでは、古代から距離・起伏が小さくなるように道づくりがすすめられ、地すべり地を利用した宿場が立地していることをご紹介しました。

最後は、「塩の道」の往時に想いを馳せながら、17人のご参加の皆さまとの楽しい語らいのひと時となりました。

信州大学・読売新聞松本支局共催「岳問のすすめ」に講師を派遣しました

平成29年11月25日（土）

信州大学と読売新聞松本支局では信州の山に学ぶと題した講座を連続的に開催しています。

この講座に指導員を派遣し、山岳博物館がライチョウ飼育に関ってきた経緯や、ライチョウ保護増殖事業などについて講演をしました。

当館で平成28年から実施しているニホンライチョウの飼育の現状では、産卵や孵化、育雛の状況を、公開されている動画を使用して解説し、好評を得ました。

参加者は23人でしたが、メモを取るなどして熱心に耳を傾けていました。

【写真提供：読売新聞松本支局】

「北アルプスの四季」の撮影が12年目に入りました

平成18年12月～継続中

山岳博物館の3階展望ラウンジからは四季折々の北アルプスの風景をご覧いただくことができます。ゆったりとしたソファーを一段高く設けてありますので、おくつろぎいただきながら、ピクチャーウィンド越しに刻々と変化する景色をご堪能いただくことができます。絵画のようなこの風景は、見飽きることがなく、来館者の皆さまに大変好評をいただいているところです。

それらの風景はご来館いただかないとご覧いただけないわけですが、なんとかして、そのすばらしさを多くの方にお伝えしたいとの思いから始まったのが博物館公式Webサイトにある「北アルプスの四季」の開設です。その年の選りすぐりの写真を季節ごとにご覧いただくことができます。

撮影は、平成18年12月からはじまり、今年の12月で12年が経ちました。

写真は一瞬を捉えたものですが、朝、昼、夕方の光の加減で見え方も異なり、さらに霧、雲、雨、雪のほか虹や月などによって一つとして同じ風景とはなりません。あわせて、このWebサイトでは閉館後や開館前の時間帯に撮影したものについてもご紹介していますことから、多様な風景を楽しんでいただけることと思います。

博物館公式Webサイトを通じて、大町市また山博をより身近に感じ、博物館をはじめ、大町市の各所に足を運んでみたいと思っていただければ幸いです。

付属園はライチョウ舎建設工事のため、平成30年3月末日まで臨時休園致します。

編集・発行
市立大町山岳博物館 OMACHI ALPINE MUSEUM
—創立1951年—
〒398-0002　長野県大町市大町8056-1
市立大町山岳博物館　編集責任者　鳥羽章人
TEL. 0261-22-0211　FAX. 0261-21-2133
✉ E-mail:sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL:http://www.omachi-sanpaku.com

1月号
第62巻　第12号
2018年

発行日　2017（平成29）年12月25日
印　刷　有限会社北辰印刷
〒398-0002 長野県大町市大町3871-1
TEL.0261-22-3030　FAX.0261-23-2010